

### Only の祝福 (マルコ 9:1-13)

信者なのに無気力になってしまうのは、条件が悪いから、環境が厳しいからと考えがちですが、実はそうではありません。信者というのは、イエスをキリストと告白している者です。それは奇跡であり、神様の恵み中の恵みです。そして誰でもイエスをキリストと信じる者は、古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなるという祝福とつとに預かっているはずなのです。なのに、その人の考えがいまだにキリスト Only になっていないから無気力にならざるを得ません。キリスト Only になっていないと、その人の考え、頭の中は整理されません。つまり、掃除しなければいけないのに、掃除されないまま脳細胞の中が、考えの内側がゴミ屋敷のような状態のままなのです。なので、信者でありながらも信者としての力を発揮することができないまま、無気力な状態が続くようになります。言葉を変えますと、このように言えるのではないのでしょうか。だから、信者であればキリスト Only の信仰にさえなれば、その人は完全に勝利することができるんだということを覚えて、キリスト Only になるとどのように祝福されるのか、どういうことが起きるのか、それは計り知れないものなのですが、今日の聖書の箇所を通して二つのことを確認して行きたいと思います。

#### 1. キリスト Only の信仰になれば、キリストの栄光の光が、その人の内側で実際に輝ける。

まず第一に、信者がキリスト Only の信仰になれば、キリストの栄光の光が、その人の内側で実際に輝けるようになります。

##### 1) 使徒 4:12、エペソ 1:3、コロサイ 2:2-3

キリスト Only というのはどういう意味でしょうか。なぜキリスト Only、キリスト Only というふうに強調しているのかと言いますと、使徒 4:12。世界中でこの御名のほかに私たち人間が救われるべき名として、どのような名も与えられていないからです。人が救われることより大切なものはありません。その救いの唯一の道なので Only にキリストなのです。それから、エペソ 1:3 には、そのキリストに会って、天にある霊的すべての祝福が与えられるようになると言われています。コロサイ 2:2-3 にも、キリスト・イエスの中にすべての知恵と知識の宝が隠されていると言われています。つまり、キリスト・イエスの中に十分な祝福があるので Only キリストです。キリストのほかに道はありません。そして、そのキリストで充分なのです。信者がこのことが分かっていると、そして実際にこの Only の信仰がその人の考えに刻まれることがなければ、昔のままの考えに走るようになるので無気力になるしかないのではないのでしょうか。しかし、信者だから神様の導きと神様の働きによって、その人の内側でキリスト Only の信仰が固まるようになれば、その人の人生そのものにキリストの栄光の光が輝くようになります。

##### 2) その人の人生に(過去、現在、未来)

つまり、その人の人生の過去に対して今までいろんなことを考えていましたが、その過去が良いことであれ悪いことであれ、つらいことがあれどのような不幸であれ、それはこのキリストと出会うために許されたものだという解釈ができるようになります。なぜ自分の過去から自由になり、むしろ今まで傷になるしかなかった過去に対して感謝することができるようになるのでしょうか。そこにキリストの栄光の光が照らされたからそうなります。そうなるまでは、過去は自分が思っている過去のままなのです。信者なのに。そして、今現在どういう状況、どういうことがあるが、そこにキリストの栄光の光が輝くようになりますので、今現在許されている現実にはキリストを味わうための材料として見る見方を持つようになります。言葉を変えますと、神様がこれからの人生のために証拠を与えようとして許されている現実なのです。なのにキリスト栄光の光がそこに照らされないと、その人は現実を見て、自分の水準で自分のレベルで好き勝手に解釈して、良い悪い、厳しいダメ、いろんな解釈があるわけです。なぜでしょうか。キリストの栄光の光が今日の現実に照らされていないからです。盲目と同じです。そして、キリスト Only の信仰になった人には、未来に対してどうなるんだろうという不安ではなく、その未来にキリストの栄光の光が輝くようになるので、私に用意されている未来はこの唯一の道であり、人生の答えであるキリストをお証しするために神様が用意してあるものだという見方を持つようになります。自分の人生を見る見方が変わります。キリストの栄光の光が、その人の考えに照らされることによって、今までの見方が全部ガラリと変わって、福音の見方を持つようになります。だから無気力などは、その人の単語にはなりません

ん。

### 3) その人の内側で(Ⅱコリント 4:6-7)

そして、キリスト Only の信仰になれば、その人の内側でキリストの栄光の光が輝くようになります。聖書のⅡコリント 4:6-7にもこう書いてあります。「光が、やみの中から輝き出よ」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです」と。内側にキリストの栄光の光が輝くようになるので、その人はキリストが自分の宝になります。「私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです」。だから、すべての言い訳が消えてなくなります。力は私にあるものではなくて、イエスが私の宝なので力は神にあるんだと。だから、自分がどんなに弱い存在であろうが、才能があってもなくても、状況がどうであろうが言い訳になりません。そこに力などはないので。そういうことが分かるようになります。いつでしょうか。キリスト Only の信仰に固まったときに、キリストの栄光の光がその人の内側で輝くようになります。

### 4) その人の現場で(1ペテロ 2:9)

それから当然なことに、キリスト Only の信仰になった人は、その人の現場でキリストの栄光の光が輝くようになります。1ペテロ 2:9にはこう書いてあります。あなたがたは、王である祭司、選ばれた種族、そして、いのちの光を闇の中から光へと導き入れられたすばらしい神のみわざを宣べ伝えるためにあなたがたは召されている者だと宣言されています。つまり、キリスト Only の信仰になっている人が行く現場には、暗闇の勢力、サタンの国が崩れ落ちて、そこに神の国のことが現れることとなります。その人の能力と現場でのその人の階級、立場とは全く関係ありません。これがキリスト・イエス Only なのかどうかの違いです。せっかく神様の恵みによりイエス・キリストを受け入れてこのような祝福の存在なのに、いまだにその人の考えが Only の信仰になっていないから力を発揮することが邪魔されているというか、延びているというか、そういうことになってしまうのです。キリスト Only の信仰になれば、ものすごく簡単に申し上げますと、御座の力がその人の内側でその人が行く所々に現れるようになります。だから神様はその人がキリスト Only の信仰になることを待っていらっしゃるし、そうなるように神様はあらゆる方法で働き、整えられる神様です。一番良い方法は、礼拝を通してメッセージを聞いて、なるほどとなることが一番幸いです。そうでないと自分で気づかないうちに、自分は Only キリストと思っているつもりなんではしょうけれども、実際はそうでないので、なかなか Only にならないので仕方がなくがん細胞を許されたり、人間としては到底理解出来ない霊的なさまざまな病を許されたり、自分は目標を持って頑張っているのに、それとは裏腹に裏目に出るようなことと遭遇したりになるわけです。それも神様の愛なのです。しかし、そうなる前にみことばを聞いて、神の御声に耳を傾けましょう。神の目的は、私たちが何をどうするか以前に、神様から与えられた賜物、いのちの祝福、イエス・キリストが私の宝となり、Only キリストの信仰の上に立つことなのです。そのときに目に見えない暗闇の力、家系に流れる呪いの勢力が砕かれるようになります。これがキリスト Only の信仰の祝福です。

### 5) Only になっていないと、混乱が続く。

しかし、信者なのにキリスト Only になっていないと、その人の頭の中は混乱がずーっと続きます。いまだにキリスト以外に何か頼るものがあるわけです。それが一つ二つではなくて、人によってはたくさんあるわけです。それが経済なのか、家族なのか、自分の才能なのか、知識なのか、何か分かりませんが、キリスト Only にならないと、それがいらぬとは言いませんけれども、頼りになるものではないのに、自分の考えの中に頼りがまだまだいっぱいあるわけです。そうするとキリスト以外に頼りになるものに対しては、それが必要な物のものなのかどうか関係なく、必ず目に見えない暗闇の力がそこにつけこんで働くようになるということを忘れてはいけません。だから無気力になるしかないのです。なんでこんなに頑張っているのにとついつい嘆いてしまう信者になってしまうのです。今日の聖書の箇所を見ますと、イエス様が3人の弟子たちを連れて変化の山に登られて、そこで衣が白く輝き、それもこの世では作れない白さでした。オーラと言いますでしょうか、光輝くように変わりました。イエス様は神様ご自身であり、イエス様こそキリストなんだよということをそのように表したわけです。そのときにモーセとエリヤがそこに現れて、イエス様と3人でお話をするようになり、それを見た途端にペテロが「イエス様。ここに三つの幕屋を作りますよ。イエス様のために、モーセのために、エリヤのために」。つまり、イエス様の

栄光の光を見たにもかかわらず、キリスト Only になっていないので、モーセも必要です。エリヤも必要です。イエス様もその中の一人ですよという感じになってしまうのです。別にペテロが悪気があってそのように提案したわけではありませんが、ペテロはキリストの栄光の光を目の当たりにしたにもかかわらず、その人の考えがキリスト Only になっていません。そうすると、このように困難がずっと続くわけなのです。イエス様に従っているにもかかわらず、だから改めてキリスト Only の信仰になりましょう。

## 2. キリスト Only の信仰は、みことばへの誤解と疑問を消す。

もう一つ、キリスト Only の信号になれば、みことばに対する誤解と疑問が消えてなくなります。信者として礼拝に参加し、神様のメッセージを聞くということはどれほど幸いなことでしょうか。その場に召されて導かれているにもかかわらず、せっかくそこまで来ているのに、メッセージが聞こえない、神のみことばが疑問だらけになるという信者が少なくありません。なんと残念でしょうか。なぜそうになってしまうのでしょうか。キリスト Only になっていないからみことばが疑問だらけになります。

### 1) キリストと救い中心に(ありのまま)

しかし、キリスト Only の信仰になれば、聖書の旧約も新約もすべてキリストと救いを中心にしてみるようになります。そうすると聖書に何かを加えたり、あるいは聖書にあるものを省いたりするような愚かな真似はしません。黙示録にはそういうことをするとその人は呪われると言われていています。でもなぜ多くの教会が、また神学を学んで教える学者たちが、聖書をありのまま信じないで、人間が理解できる部分は強調してそうでないものは、編集されたデタラメだというふうを考えて省いたりするようになるのでしょうか。キリスト Only になっていないので、聖書を見るとときにキリストと救いを中心にしてみないので、理解できないものが多いのです。しかし、キリストと救いを中心にして見ると、すべてが理解できます。だから人間のレベルを超えた、私たちの法則を破っているお話であっても、また、この小さな頭の中にある科学の法則に反しているように見えることでも、ありのまま受け入れて信じるようになります。それは科学を無視したり知らないからではありません。その科学の限界というものを知らないのです。その科学のルールを無視するわけではありませんが、それを上回る創造の神様がそれを超越されます。何のためにでしょうか。キリストが来られるために。私たち罪人を救うためになさることを人間のレベル、科学のレベルでは理解できません。だから聖書が疑問だらけになり、聖書をありのままアメンと信じ受け入れることができない残念な結果になるわけです。しかし、キリスト Only の信仰になれば、そういう疑問と誤解などが全部消えてなくなります。だから聖書を見ても誤解する人が多いのです。自分の都合に合わせて聖書を見たり。キリスト Only の信仰になれば、聖書を見たときに祈りと、つまり御座の祝福を味わう祈りと福音宣教、ほかのたましいを生かす福音宣教を中心にしてみるようになります。だからそこに誤解、疑問など存在しません。みな知識が豊富でさまざまな学問を総合してそういう頭を持っているから、それで聖書を見ると聖書はあまりにも幼稚だとか、そういう発言をする人が少なくないです。しかし、それこそ愚かなことです。それは知恵でも知識でもありません。すべての知恵と知識の根源は神様ご自身であると箴言にも宣言されています。

### 2) 祈りと伝道中心

皆さん、これからもそういういろんな場面に遭遇するようになると思います。そのときに戸惑わないように。「なるほど、キリスト Only になってないんだ」というふうに見ればいいのです。それでそういう人々のために祈ってあげることなのです。しっかりと自負を持って。キリスト Only の信仰になれば、キリストを救いが中心であり、祈りと福音宣教が中心になって聖書を見るようになります。

### 3) ヘブル 4:12

なので、その人はヘブル 4:12 のみことばがその人に働くようになり、成就するようになります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます」と。みことばが生きてその人に働くようになります。皆さんの考えの中にみことばが生きて働くことでなければ、皆さんの古いゴミ屋敷のような考えは掃除できません。いやされることはなかなか難しいです。ほかの何かを癒やそうとしないで、みことばが働いて考えが掃除されると体も癒やされます。集中訓練の時にもお話ししたし、また前のメッセージの時にもお話ししたと思いますが、私たちの考えというのは、特に自分がこれは正しいと強く主張し

ている頑固な部分は、神なしで自分、肉、この世を中心にして解釈されたものが入力されている考えなのです。すべてがちりあくたなのです。でも、みなそれをあてにして「あなたが悪いよ、私が正しいよ、なんでそうなの」と喧嘩が勃発したりするでしょう、家庭内でも。皆さんが主張している内容が本当に正しいと言えるのでしょうか。それが掃除されなければいけません。その道具はみことばのほかにはありません。人の声は人の声なのです。どんな理論、立派な主張であっても、どんな思想であろうが、神のみことばが皆さんに強く働くように、刻印されていくようにならないといけません。いつそれができるのでしょうか。キリスト Only になるときにです。これは知らない人から見ると、「あの人は単純過ぎて、単細胞的で無知な人間だ」と思われる場合もあります。どうぞ勝手に思ってください。あなたはゴミ屋敷なのです。私は掃除されているからシンプルなのです。キリスト Only です。なぜ洪水によって全世界が滅ぼされたのでしょうか。キリスト Only なのです。普通はそういうことが理解できません。なぜ戦争が絶えないのでしょうか。キリストを Only なのです。引っかかるようなものは何一つありません。これをサミット、あるいは超越と言うわけです。ぜひ皆さん、キリスト Only の信仰になってみことばが皆さんの内側で強く働くことを体験しましょう。自分がいま才能があるかどうか、立場がどうなのか、周りからどう思われているかは一切関係ありません。みことばが皆さんの考えを支配する時に、神の御国のわざが現れるようになります。再創造、人間では考えられない、やれないことが起きてしまうのです。みことばが皆さんの何よりも考えを支配するときに、だから、集中と反復ということを強調したのです。

4) Only になっていないと、自己論理(前提)にはまる。

しかし、信者でありながらも、キリスト Only の信仰になっていないと、結局、すべての聖書を見るときに肉を中心にして、また自分のレベル、自分の水準、あるいは自分の願いを中心にして聖書を見て神のみことばを聞くようになります。そうすると、もうすでに自分の前提というものが固まっていて自分、自己論理というものがあるのです。これはこうだというものを先に持っていて聖書を見るので、正しく見えてくるはずがないのです。でも、そうならざるを得ないのは、キリスト Only になっていないからです。今日の聖書の箇所を見ても、山を下りながらイエス様が「これは絶対に誰にも言わないように」とおっしゃいました。イエス様が死んでよみがえられるまでは。そして、前にもそれに引っかかっていたのですが、弟子たちはそれにまた引っかかります。「分かりました」とは言ったのですが、弟子たち同士で「死んでよみがえる、死ぬってどういうことなの？」とまた議論し始めたのです。それからイエス様に質問しました。「イエス様、律法学者たちが言うには、つまり聖書にはエリヤが先に来て、すべてを回復すると言われているんですけども...」と言いました。どういう意味なのでしょう。エリヤが来てすべてを回復する。その後、キリスト、メシヤが来るとなれば、それは想像がつくでしょう。凱旋將軍みたいに入ってくるのが筋ではないでしょうか。そういうことを前提にして今聞いているわけです。エリヤが先に来て回復するということと、キリストが十字架で死なれるということが矛盾して話にならないのではないのでしょうか。イエス様なにかどこか間違っているのではないのでしょうか。神のみことばに対して誤解、疑問だらけなのです。エリヤが先に来てすべてを回復するというのは聖書のみことばなのですが、なぜ彼らはそういう風に取り上げるのでしょうか。彼らには自分なりの論理、自分の前提、自分なりのメシヤ像というものがあつたわけです。イスラエルを再建させて、ローマを打ち砕いて、異邦人をすべて滅ぼしてというメシヤを自分なりにイメージしているのです。Only キリストになっていないと聖書を自分勝手に解釈して、自分の都合に合わせて解釈して、メシヤがそういう方になっているのです。それを大前提にしてエリヤが回復するというみことばを見るとそのように見えるわけです。自分の前提があるから。それでイエス様は「あなたの言うとおりで。エリヤが来てすべて回復する」。しかしその後の言葉は、メシヤは苦しみを受けて死ぬと書いてあるのは何でなのか。なぜそこを見ないのかと。聖書に書いてあってもキリスト Only になっていない人は、結局、自分の前提を持って自分の都合に合わせて見るので、そこに合う部分だけを見てそうでないことが書いてあるところは見ようもしないでパスしてしまうのです。誤解と疑問だらけになるのです。聖書がちぐはぐでこの部分はみことば、これはちょっと違うなということにならざるを得ません。なぜでしょうか。自己前提、自分 Only というものがあるから。これは学者だけの話ではなくて、私たちも同じなのです。キリスト Only にならないと仕方がなく、自分の中に先に立ってるサタンをやぐらを中心にして、自分主張、自分論理、自己思想みたいなものを、それが思想的に整備されているかどうかは別にして必ず持っているのです。私は子どものために生きるよ。聖書にはそういうことは書いていないのに。別に悪いことではありません。それが何かの傷によって、何かの経緯によって、その人に自己主張として固まっていた場合、聖書を見るとき全部そういう目で見えるわけです。それと違う話は見えて

こないのです。パスします。メッセージを聞いていても耳を塞いで、それが聞こえてない。「イエスを信じてあなたの子どもは成功しますよ」という話はぱっと入るのですが、その次に例えば「そのためにすべてを失うこともありますよ」というのは聞こえないのです。分かりますか。キリスト Only になっていないと全部自分の都合で、もっと正確に申し上げると自分の都合じゃなくて、それがキリスト Only にならないようにする暗闇の働きです。なぜならキリスト Only になるとサタンが一番困るからです。エリヤが来て回復するという意味も、聖書が言っている意味も違うのです。それで最後にイエス様は、エリヤはもうすでに来たんだよと。でも、人々は勝手にエリヤを処理し、バプテスマのヨハネ、エリヤとしてきたわけです。殺されました。それが回復なのです。エリヤが来て回復するというのは、十字架で死なれてよみがえられるために来られるキリストの道を整えるために来るわけであって、凱旋將軍の赤い絨毯を用意するために来るという意味ではないのに、ペテロや弟子たちはそういうふう解釈していたわけです。そのように解釈すると、その次に苦しめられるというのは見たくもないのです。もはや聖書ではありません。自分の都合のために神社に行って自分の願いをお願いするのと同じなのです。神社は非常に便利なのです。おみくじを引いて悪いものが出れば、木の枝に結べば悪いものでなくなる。なんで最初からやるの？それを。どうせそういうものなら全部「吉」ばかりを置いておけばいいのではないですか。到底私の頭で理解できないのですが、そんな感じなのです。教会に通っていても、聖書を見ていても。キリスト Only にならないければ宗教と同じ流れになり、宗教に負けてしまいます。宗教でないから。

改めて申し上げます。キリスト Only の信仰になれば、その前提は何かというと、私たちは神の奇跡によって、イエス様をキリストと信じて受け入れた幸いな神の子どもなのです。だから何がどうであれ、キリスト Only の信仰になればキリストの栄光の光が具体的に輝くようになります。ペテロのように目の当たりにしたにも関わらず、ペテロに輝いていない。私たちに残ってる課題は一つしかありません。どんな悩みがあるのでしょうか。どんな環境なのでしょうか。皆さんの内側にキリストの栄光の光が輝くことなのです。そして、キリスト・イエスの Only の信仰になれば、神のみことばが皆さんの内側で強く生きて働くようになります。それ以外に私たちが勝利できる方法はありません。これで充分です。余計なことを考えなくてもいいのです。神様は信仰者を導かれるときにいつもこのきっかけというか、このタイミング、転換点、ターニングポイントを用意します。

アブラハムはロトをどこかで頼りにしていました。ロトと決別することで、つまり Only になったときに、アブラハムの人生は変わり始めました。それからヨセフは最初から Only なのです。だから、いじめがあろうが、親が早く死んで寂しい状況であろうが構いません。最初から Only でした。パウロはキリストと出会ったその瞬間から、今まで頼りにしていたすべてをちりあくと宣言しました。Only キリストになったわけです。このアブラハム、ヨセフ、パウロのような信仰の先輩が告白していた Only の信仰、それが私の告白になるようにしましょう。この呼びかけに対して心から反応が鈍い方々は、そうなるように神様がいろいろなさると思います。それが祝福なのですが、でも肉体的にはとてもつらいのです。足が折れたり。私は足の怪我をして、今まで牧師なのである程度やっていましたが、祈りが何か改めて勉強しました。今ここで話すよう用意した話ではないのですが、当時、1 時間に 1 回、怪我をして手術したところを横になって氷で冷やさないといけませんでした。50 分経つと 10 分、50 分経つと 10 分。1 日ずっと寝る時以外は。それで 50 分経って 10 分祈り。50 分経って 10 分祈り。一日ずっと祈るということを経験しました。横になっていてやることは何もありません。よかったですよ。だから怪我したのかなと思ったり。でも。膝の怪我などしないでメッセージを聞いて黙想して、みことばと向き合って、なるほど。Only キリスト。それでヘブル 12:2 のみことばを決断しましょう。「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」。こうするんだ。何があろうが。そうなりますと、使徒 1:7-8 の方に立つようになります。それはあなたがたは知らなくてもいいですよ。つまり、今まで頼りにしていた、また気にしていたさまざまなことを、Only を邪魔していたもの、それはカットしなさい。Only 聖霊が臨まれると、つまり御座の祝福に Only、キリスト Only だから他の事を気にしないで、言い訳もしないで、御座の祝福で充分なので、それに向かって集中しましょうということになるのです。だから今日のメッセージを通して、皆さんがキリスト以外になんとか自分自身を吟味してみても頼るものがもしあれば、それが見えるものであれ見えないものであれ、人間であれものであれ、どうであれ、どっちであれ、それを全部なくしましょう。頼るものがあるから失望することもあるわけです。クリスチャンは、Only の信仰の人は、頼りもないし、失望ありません。なぜなら最初から、はなから頼るものなどないのです。失望もあ

りません。だから、Only キリストの信仰者になって、頼るもの、失望するものを全部なくして堂々と証人の道を歩いて行きましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。神様の計り知れない愛と恵みにより、イエス・キリストの血しおによって地獄の民であった私が、死と罪の原理に囚われていた私が、神の子どもとなり、いのちと御霊の原理の中を生きるこの幸いをありがとうございます。神の神殿と呼ばれる幸いな新しく作り変えられたものであることを覚えて、だからこそ、キリスト Only の信仰にしっかり立つように、自分の考えが Only キリストになるよう祈ることができるように、ひとりひとりを祝福してください。そして、そこにあるキリストの栄光の光とみことばの力をひとりひとりが自分のものとして具体的に体験して、惑わされることなく人を助ける証人としての道を歩めるように祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン